

## 第 17 回堺市新型コロナウイルス対策本部会議議事要旨

日 時：令和 2 年 11 月 20 日（金） 午後 6 時 00 分～

場 所：堺市役所本館 3 階 大会議室

- 議 題：1. 本市の新型コロナウイルス感染症患者の状況等について  
2. 検査体制について  
3. 国・大阪府の対応を踏まえた今後の本市の対応について  
4. その他

### 【開会にあたり市長より】

- ・全国的に感染が急拡大している。堺市においても、特に 11 月に入ってから新規の陽性者が 2 桁を超える日が多くなり、直近では毎日 2 桁以上となっている。
- ・現状の傾向がどうなっているのか、どういった方々が感染しており、重症化リスクがあるのか、を分析し、本部員と認識を共有したい。
- ・本日の大阪府新型コロナウイルス対策本部会議で決定された府の方針に付け加え、堺市として、特に市民の皆さまの行動変容、注意喚起を促したい内容について、この会議で協議したい。
- ・年末年始、人出が多くなる時期を迎えるにあたり、細心の注意を払い、市民の皆さまの健康を守るための取組みを進めていく。

### 【議題説明及び質疑】

#### 1. 本市の新型コロナウイルス感染症患者の状況等について (健康福祉局長)

(※資料 1 参照)

- ・「直近 1 週間の人口 10 万人あたり新規陽性者数」は大阪府・大阪市と同様の増減傾向を示しているが、数値としては低くなっている。
- ・「直近 1 週間の人口 10 万人あたり感染経路不明者数」も、大阪府・大阪市と同様の増減傾向を示しているが数値としては低くなっている。
- ・「新規陽性者の年齢構成割合」について、第 1 波（～5 月 13 日）は高齢者の割合が比較的高く、第 2 波（6 月 16 日～10 月 3 日）は若い世代が多くなっている。第 3 波（10 月 5 日～）は幅広い世代で感染者が確認されている。
- ・「新規陽性者の性別構成割合」は、全期間を通じて、明らかな差は認められない。
- ・「感染が推定されるエピソード」は、第 1 波は「職場」での感染が推定される事例が比較的多く、第 2 波・第 3 波では、様々な場面で感染予防の取組みが進んだことで「職場」の割合が低くなり、家庭内での感染が推定される事例が増えている。
- ・「重症事例」は、50 歳代以上が多くを占めるが、若い世代でも基礎疾患がある場合、重症化する事例がある。
- ・「死亡事例」は、70 歳代以上の方がほとんどである。

(市長から補足説明)

- ・本市における感染拡大の「波」の定義を補足しておきたい。

- ・4月、5月と緊急事態宣言が発せられたが、本市では、5月14日から6月15日まで新たな感染者の発生はなかった。そのため、5月13日までを「第1波」、6月16日から感染者がゼロとなった10月4日の前日である10月3日までを「第2波」、10月5日から現在を「第3波」と捉えている。
- ・健康福祉局長から、「大阪市に比べて低い数値となっている」との説明があったが、大阪市は西日本第一の大都市であり、飲食店をはじめ都市機能が集積している。人が集まり、密度が高いとそれだけ感染の可能性が高くなる状況になる。大阪市が高くなるのはある意味必然と考える。隣接し、通勤圏、生活圏がほぼ一体であるので、大阪市の状況も踏まえ、対策を検討していきたい。

## 2. 相談・受診・検査体制の強化について(健康福祉局長)

(※資料2参照)

- ・衛生研究所への最新試薬の導入や医療機関へのPCR検査機の導入により、7月に1日あたり350検体となった。11月には、地域外来・検査センターの設置や民間検査機関での検査実施などで1日1,000検体の検査が可能となった。
- ・大阪府は1日2万件の検査数を目標としており、堺市も更なる拡充に向け、1月には1日2,000検体とすることを目標としている。

## 3. 国・大阪府の対応を踏まえた今後の本市の対応について(危機管理監)

(※資料3参照)

- ・堺市独自の対応について、補足説明する。
- ・市民の皆さまへのお願いとして、堺市として2点追加している。追加した趣旨は、マスクを着用する理由をご理解いただくため、丁寧に説明したい、というのが1点目。2点目は、特にリスクの高い場所から帰宅する場合には、家庭内にウイルスを持ち込まないための行動変容をお願いしたい、というものである。
- ・堺市独自の経済界へのお願いとして、「従業員の昼休み等の休憩時間を分散すること」を追加している。これは、社員食堂や飲食店などでの密を避けていただきたい、という趣旨である。
- ・関係団体や施設等には所管部局から11月10日前後に文書による要請をしているが、新たな内容が含まれるため、所管部局から改めての要請をお願いする。

(市長から補足説明)

- ・今回、堺市独自の要請を追加した趣旨を補足する。
- ・直近では、同居家族間の感染が多くなっている。旅行、食事、職場で感染してしまい、家に戻ってきて家族に感染するというケースが多いのではないかと考えている。マスクの着用が定着しているが、ちょっとしたときに意識が緩み、マスクを外して人と話してしまう、というような場面で感染リスクが高くなっているのではないかと。「自分がうつらない」「相手にうつさない」ために、特に会話の際に気を付けていただきたい。これが旅行や職場など「外」でのお願いである。
- ・2点目は、家庭内にウイルスを持ち込まないための対応である。毎日毎日ではないが、

会食や人が集まるイベントなど感染リスクが高い場面から帰宅する場合、玄関で消毒をして、すぐに手洗い・うがい、シャワーをすることで、家族への感染を防いでいただきたい。

- ・特にこの2点を期間中、市民の皆さまに気を付けていただきたい。

#### 4. その他（市長公室長）

（※資料4参照）

- ・関西広域連合においては構成県民・市民に向けて感染拡大防止の行動変容を促すための宣言を第1波やGW、第2波等の際も発出してきたところである。現在の第3波や人と接する機会が多くなる年末年始に向けて、構成府県民・市民の皆様への行動変容を促すため、幅広い内容が取りまとめられている。本市においても市ホームページやLINE等のSNSで呼びかける他、堺市役所本館1階のデジタルサイネージへ掲出し、市民の皆様へも行動変容をお願いしたい。

（総務局長より）

- ・職員自身が感染することで、来庁者や家族、職場の同僚へ感染が拡大する可能性がある。さらに、業務へ大きな支障をきたすことにもなるので、再三にはなるが、感染予防の徹底をお願いしたい。
- ・マスク着用の徹底や3密を避けるといった基本的な感染防止対策と併せて、国の新型コロナウイルス感染症対策分科会が提言する『感染リスクが高まる「5つの場面」』に注意することを本部員より職員に周知徹底してほしい。
- ・年末年始の帰省等に伴う人の密集を避けるため、休暇を分散して取得するよう通知を発出する予定である。通知を踏まえ、こちらも職員に周知してほしい。

【閉会にあたり市長より】

- ・11月中に1日あたり1000検体の検査を実施できるよう、さらに、1月中に、1日あたり2000検体の検査を実施できるよう、検査体制や保健所体制を強化し、市民の皆様が安心して暮らせる環境の整備を進めていく。
- ・福祉施設や医療機関等、重症化リスクが高い場所において感染拡大の兆候が確認された際は、大阪府とも連携し、迅速に対応することで、クラスターが発生しないように感染を封じ込める必要がある。
- ・行政として、万全の対策を講じ、職員へ感染予防について周知徹底することはもちろんのこと、年末年始に向けて、市民の皆さまが感染しない・させないための行動変容に寄与できるよう、意識の啓発も必要となる。
- ・全国的に感染が拡大する傾向であり、臨機応変な対応が求められる。さらに気を引き締めて、対応にあたってほしい。